

S1

いばらきコープの農薬に関するリスクコミュニケーションについて

— 農業生産と農薬使用について望むこと —

○谷島 朋子、○岩佐 透、橋本 実（いばらきコープ生活協同組合）

1. 農業生産において、農薬を使用することへの考え方

- 1) 病害虫から農作物を守る、農作物の成長を促す、さらに生産・栽培における労力やコストの削減など、農薬は農産物に対してさまざまな役割を持っている。
- 2) 農薬を使用する時は、使う目的を明確にし、必要に応じて適正な量目を使い、履歴をしっかりと残してほしい。

2. 農業生産と農薬使用について、生産者に望むことと消費者に望まれること

1) 生産者に望むこと

農薬取締法やポジティブリスト制度などをよく理解し、農業生産に臨んでほしい。農薬を使用した時は、使用方法、希釈倍率、適応農作物、使用時期、期間、目的などをしっかり記録し、管理を徹底してほしい。できれば、環境にやさしい農薬の推進役として、有機JASや特別栽培農産物などに挑戦してほしい。生産者の皆さんのこうした努力が実を結ぶように、行政もその役割を発揮してほしい、私たち消費者もそのお手伝いをしたい。

2) 消費者に望まれること

消費者の立場で考えると、「農薬に関する正しい情報を知らない」ということが課題だと思う。テレビや新聞、雑誌などのマスコミの情報に踊らされてしまっている。農薬にも役割があり、日々違う条件のもとで作られているということなど、農業や農作物のことに興味を持って、現状を知る努力が必要。

3. 作る側と食べる側をつなぐコープの役割

消費者と生産者のコミュニケーションの場を設け、いばらきコープ（コープネットグループ）の商品政策・農薬に関する考え方について理解を広げる取り組みをすすめている。

- 1) 広報誌「コープスマイル」で「食卓の安全学」（科学ライター松永和紀著）の連載
- 2) グリーンBOX生産者との協同の取り組みとしての『畑のがっこう「確認教室」』

Approaches by Ibaraki Co-op. to Risk Communication of Pesticides

— What we want for agricultural production and pesticide uses —

○Tomoko Yajima, ○Tooru Iwasa and Minoru Hashimoto (Ibaraki Co-op)

Ibaraki Co-op provides opportunities of communication between public consumers and agricultural producers, and makes an effort to improve an understanding about pesticides.

In this presentation, we will explain mainly our specific approaches.

4. 農薬の安全性確保の考え方（コープネットグループの商品政策より）

- 1) 「特定の農薬」や「散布回数」に特化した管理方法では、安全性を確保することはできません。使用するすべての農薬について、適切な使用と管理を行うことが必要です。
- 2) 農薬の安全性は、登録された農薬について定められた使用方法を順守することで確保されます。フードチェーン全体での安全性確保において、農薬使用基準を順守することが生産者（農薬使用者）の責務です。
- 3) 生産者の責務を明確にし、生産者が適正な農薬の使用と記録・管理を行います。そして、産地・生産者団体等に組織的に農薬適正使用の指導と点検を行うことを要請します。
- 4) 組合員が農薬の効果を実感することはほとんどありません。農薬についての知識と理解を深めるために、正確な情報提供と、農薬の必要性などについて学習できる産地見学等の取り組みを強めます。
- 5) 農作物を原料とした加工食品は、フードチェーンの各段階（製造者、販売者）で産地や流通過程の点検・確認・残留農薬検査など、安全性の確認と検証の取り組みを進めます。
- 6) 環境への影響を低減するために、できる限り農作物に残留しないように、生産者と協力しながら農薬の使用削減に取り組みます。